

## 第2回がんのリハビリテーション懇話会 開催案内

### 開催趣旨

がんの治療技術が向上し生命予後が改善するなか、がん患者さんのQOL 維持・向上が重要視されるようになり、がんのリハビリテーションへの期待が高まっています。しかし、日本の医療機関においてはがん患者さんに対するリハビリテーションがまだ十分に普及していない状況です。

本懇話会は、がんのリハビリテーションの普及と今後の臨床や研究の質の向上を目指した意見交換の場を提供する目的で企画されました。今回は、がんのリハビリテーション先進国である米国MD アンダーソンがんセンターのYadav 医師の講演を予定しております。豊富な知識や経験に基づいたお話が伺えるものと期待されます。多数の方のご参加をお待ち

開催日時：2013年1月12日(土) 10時～17時 (受付9時30分より)

会場：笹川記念会館  
国際会議場(2階) 口演会場および受付  
第1・第2会議室(4階) ポスター会場

住所：〒108-0073東京都港区三田3-12-12 電話：03-3454-5062(代表)

京浜急行・都営地下鉄泉岳寺駅より徒歩3分、JR田町駅より徒歩8分

対象：がんのリハビリテーションに興味のある医療職の方すべて

参加費：無料 (事前申し込み不要)

### 主催：

がんのリハビリテーショングランドビジョン作成ワーキンググループ

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究 研究班

### 後援：

日本リハビリテーション医学会

(日本リハビリテーション医学会設立50周年記念事業カウントダウン企画)

日本理学療法士協会

日本作業療法士協会

日本言語聴覚士協会

日本がん看護学会

日本リハビリテーション看護学会

### 代表：

辻 哲也 (研究代表者: 慶應義塾大学医学部腫瘍センターリハビリテーション部門)

### 幹事：

田沼 明 (静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科)

宮越 浩一 (亀田総合病院 リハビリテーション科)

### 事務局(問い合わせ先)

静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 担当 野澤・田沼

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

Tel: 055-989-5222(代) E mail: t.nozawa@scchr.jp

タイムテーブル

9					10					11					12					13					14					15					16				
30	40	50	0	5	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50
受付開始					開会挨拶					基調講演 辻哲也					一般演題 口演 01~07					指定演題 宮川哲夫/大原有郁子/ 平いつき/奥朋子					特別講演 Rajesh R. Yadav					閉会挨拶									
ポスター貼付					一般演題 ポスター P1-1~P1-6 P2-1~P2-6 P3-1~P3-6 P4-1~P4-6					ポスター掲示										ポスター撤去																			

プログラム

- 09:30 受付開始
- 10:00 開会挨拶 生駒一憲（北海道大学病院リハビリテーション科 教授）
- 10:05 基調講演（座長 宮越浩一）  
「がんのリハビリテーションの現状と今後の動向  
～がんのリハビリテーションガイドラインおよびブランドデザイン作成の進捗状況報告とともに」  
辻哲也（慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長）
- 10:40 一般演題 ポスター（座長 P1 鶴川俊洋 P2 田尻寿子 P3 松本真以子 P4 村岡香織）  
P1-1 ターミナルケアにおけるチームアプローチの実践・大森桃子  
P1-2 動作時の呼吸指導と多職種介入により在宅での療養が可能となった末期の肺癌、転移性肺腫瘍の一例・岡村佑人  
P1-3 食欲不振を訴える肺がん患者に作業療法士ができること～ADL状況と栄養状態の後方視的調査から～・池知良昭  
P1-4 脳転移患者に対するリハビリの有用性・藤田智彦  
P1-5 小児がんのリハビリテーション・宇高千恵  
P1-6 直腸癌術後の排便障害改善への取り組み～耐容量向上への取り組み～・植野正裕  
P2-1 慢性骨髄性白血病に大腿骨転移を合併したまれな症例に対するリハビリテーションの経験・小泉浩平  
P2-2 急性骨髄性白血病に対し造血幹細胞移植を行い、異なる治療経過を辿った2症例の運動耐用量の変化に関する比較・佐藤大  
P2-3 終末期リハビリテーションの役割について～MDASI-Jを用いた症状認識の調査より～・荒川広宣  
P2-4 終末期におけるPTの関わり～病態に応じた患者様のneedの実現のために～・井ノ本千沙  
P2-5 当院における緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの取り組み・佐々木貴義  
P2-6 大学病院における緩和ケア病棟リハ開始時の患者状況と転帰・高橋晴美  
P3-1 骨転移患者に対するリハビリ時のリスクマネジメント・中田英二  
P3-2 当院のがん患者リハビリテーションにおける骨転移への対応に関する検討・大野綾  
P3-3 脊椎SRE (Skeletal related event) の保存的治療時の安静度の検討・重見篤史  
P3-4 進行期の転移性骨腫瘍入院患者の移動能力変化・島雅晴  
P3-5 自宅退院へ向けて心のケアが奏功した転移性脊椎腫瘍による両下肢麻痺症例・三橋範子  
P3-6 当院のがん患者リハビリテーション～進行がんの算定とがん患者リハ施設基準～・宮崎博子  
P4-1 乳癌に対する術後上肢機能障害予防システムの有用性・菊池祐人  
P4-2 乳癌ADL対策システムの有用性・青木裕美  
P4-3 乳癌再発患者の呼吸障害に対する乳癌ADL維持システムの有用性・岩田織江  
P4-4 若年者の進行期の骨軟部腫瘍症例に生じたリンパ浮腫に対する治療経験・濱田健一郎  
P4-5 続発性下肢リンパ浮腫に対する複合的治療介入前後のQOL変化・吉川正起  
P4-6 がんリハビリテーションにおける医師事務作業補助者の役割・宮本千絵
- 12:30 一般演題 口演（座長 小林毅）  
O-1 がん患者に対する訪問リハビリテーションの効果・松本真以子  
O-2 当院におけるがんリハビリテーションの現状  
～がんリハビリテーションチームにおけるがん看護専門看護師の役割の検討～・前田絵美  
O-3 MD Anderson Cancer Centerにおけるがんに伴う倦怠感軽減に対する作業療法士の関わり・藤井美希  
O-4 当院における造血管腫瘍患者に対するリハビリテーション・西田毅之  
O-5 進行期がん患者の骨転移部位と骨折リスクの把握について(PETなどの撮影範囲の問題点)・杉原進介  
O-6 リハビリテーション職種としての緩和ケアチーム(PCT)介入について  
(手稲漢人会病院PCTにおけるリハビリテーションスタッフの活動について)・佐藤義文  
O-7 大腸癌手術ERAS管理の中での周術期がんのリハビリテーションの有用性・太田博文
- 14:00 指定演題 進行がんに対するリハビリテーション（座長 高倉保幸）  
「呼吸困難への対応」 宮川哲夫（昭和大学大学院保健医療学研究科呼吸ケア領域 教授）  
「ADL障害への対応」 大原有郁子（東札幌病院 作業療法士）  
「嚥下障害への対応」 平いつき（至誠堂宇都宮病院リハビリテーション科 言語聴覚士）  
「浮腫への対応」 奥朋子（千葉大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）
- 15:30 特別講演（座長 水落和也） 同時通訳有  
「Current status and future of cancer rehabilitation in United States」  
Rajesh R. Yadav（テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター リハビリテーション科准教授）
- 16:40 閉会挨拶 辻哲也（慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長）